



ライトアップされた天守閣、
荘厳な本丸御殿を背に披露する幽玄の世界。
侍が愛した能楽の世界を、ぜひご堪能ください。

名古屋城夜間特別公演

名古屋城本丸

新
能

解説 山階彌右衛門

番組



能

天女	久田三津子	後見	林 宗一郎
白龍	橋本 幸		井上裕之真
笛	竹市 学	地謡	山階彌右衛門
小鼓	船戸昭弘		観世三郎太
大鼓	河村真之介		清水義也
太鼓	加藤洋輝		木月宣行
			杉浦悠一朗
			吉沢 旭

春の朝、三保の松原に住む漁師・白龍は、仲間と釣りに出た折に、松の枝に掛かった美しい衣を見つけます。家宝にするため持ち帰ろうとした白龍に、天女が現れて声をかけ、その羽衣を返して欲しいと頼みます。白龍は、はじめ聞き入れず返そうとしませんでした、「それが無いと、天に帰れない。」と悲しむ天女の姿に心を動かされ、天女の舞を見せてもらう代わりに、衣を返すことにします。穏やかな春の海、白砂青松、美しい天女の舞い、そして遠くにそびえる富士山…。羽衣伝説を題材にした、観る者を幸せな気分にしてくれる番組です。

「羽衣」和合之舞



©工房 円



狂言

大名	佐藤友彦
太郎冠者	井上松次郎
女	今枝郁雄

後見	鹿島俊裕
----	------

訴訟事のため永らく都に滞在していた田舎大名は、訴訟も無事に済み近々帰郷することとなりますが、在京中に親しくなった女のもとへ、召使いを伴って別れの挨拶に立ち寄ることに。女は、別れを惜しんで泣き始めますが、実際は水入れの水を目に入れて泣き真似をしている様子。その挙動に不審を感じた召使いは、水入れの水と墨を入れ替えてしまい…。今も昔も変わらぬ男女の人間模様。虚々実々の駆け引きが真剣鉾々に笑いを誘い、また召使いの作戦が見どころとなっています。

「墨塗」



半能

白獅子	坂口貴信	地謡	観世三郎太
赤獅子	久田勘吉郎		清水義也
寂昭法師	飯富雅介		林 宗一郎
			松山幸親
笛	竹市 学		井上裕之真
小鼓	後藤嘉津幸		本田 勲
大鼓	河村裕一郎		
太鼓	加藤洋輝	台後見	木月宣行
			杉浦悠一朗
後見	山階彌右衛門		吉沢 旭
	久田勘吉郎		伊藤裕貴
	上田公威		

修行のため文殊菩薩の聖地を目指す（じやくしやう）寂昭法師。目的地への道中、目前には底が見えないほどの深い谷に、一本の細く長い石の橋が架かっています。橋の先は浄土の世界ですが、とても常人が容易に渡れるものではなく、仏道修行の困難の示唆を説かれると、そこに橋の向こうから文殊菩薩の使いである赤白二頭の獅子が現れ、ものの見事に舞い踊る…。華やかな獅子舞、力強い地謡など、見どころ満載の楽しい番組です。

「石橋」大獅子



©牛窓雅之

チケット取り扱い

会場アクセス

雨天の場合

チケット発売 9月11日(水)

- 名古屋市文化振興事業団チケットガイド TEL:052-249-9387
(平日9:00~17:00/チケット郵送可)
- 名古屋市文化振興事業団が管理する文化施設窓口(土日祝日も営業)
※工事休館等がありますので、ウェブサイトでご確認ください。
<https://www.bunka758.or.jp/>
- 電子チケット「teket」<https://teket.jp/1168/36812>



名古屋城本丸(本丸御殿北側) 名古屋市中区本丸1番1号

- 地下鉄名城線「名古屋城」下車7番出口より徒歩15分
- 地下鉄鶴舞線「浅間町」下車1番出口より徒歩12分
- 名鉄瀬戸線「東大手」下車徒歩22分
- 市バス栄13号系統(栄~安井町西)「名古屋城正門前」下車すぐ
- なごや観光ルートバス・メーグル「名古屋城」すぐ

雨天の場合は、会場を名古屋能楽堂・能舞台(中区三の丸1丁目1番1号)に変更します。
※名古屋城正門よりすぐ。 ※公演当日11/7(木)13:00までに、公演会場をお知らせいたします。
中止あるいは会場や内容が変更する場合がありますので、お出かけ前に必ずウェブサイトやお電話にてご確認ください。

- 名古屋城ウェブサイト <https://www.nagoyajo.city.nagoya.jp>
- 事業団チケットガイド(052-249-9387/平日9:00~17:00)
- 名古屋城総合事務所(052-231-1700/9:00~16:30)
- 名古屋能楽堂(052-231-0088/9:00~17:00)
- teket販売ページ

